



月げつとせいざ星座

監修 縣秀彦★
国立天文台
天文情報センター普及室長

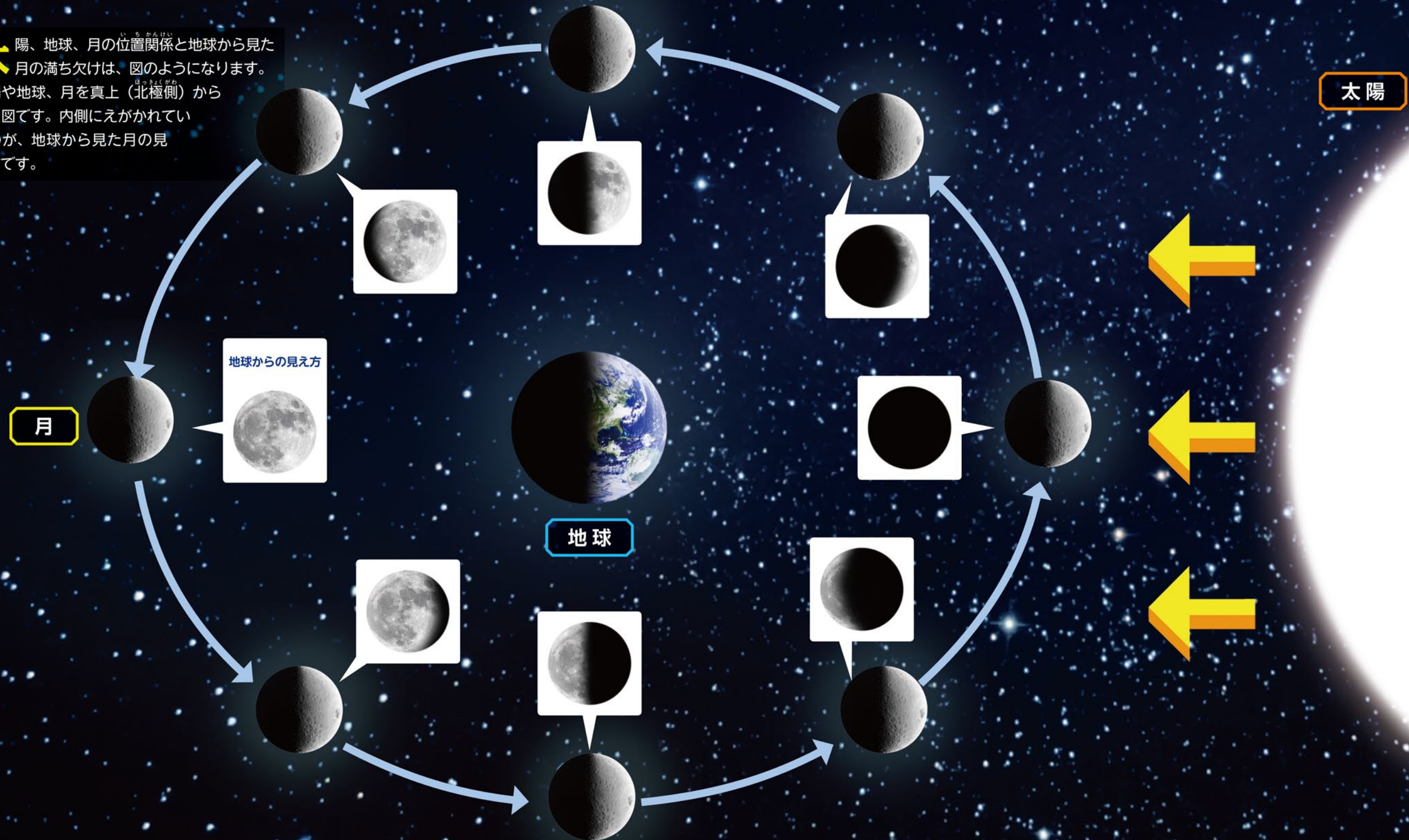
大事典だいじてん

あかね書房

月の満ち欠けのまとめ

月の動きと地球からの見え方の全体像を確認してみましょう。

太 陽、地球、月の位置関係と地球から見た月の満ち欠けは、図のようになります。太陽や地球、月を真上（北極側）から見た図です。内側にえがかれているのが、地球から見た月の見え方です。



地球と月と太陽の^{かんけい}関係でおきる 月食・日食

月と地球と太陽の^い位置関係によって、月や太陽が欠けたり、暗くなったりすることがあります。どんな現象か確認しましょう。

満 月のときに、太陽に照らされた地球のかけが月をかくす現象を月食といいます。また、新月のときに月によって太陽の光がさえ

ぎられる現象を日食といいます。月食、日食ともに、大きく3つに分けることができます。

月食



部分月食

月の一部が欠けて見える月食です。



半影月食

月全体が少し暗くなる程度で、かなり注意していないとよくわからない月食です。



皆既月食

月全体が地球のかけに入っておこる月食です。真っ黒にはならず、赤く見えます (→P43)。

もっと知りたい!

三日月と月食のちがい

三日月も月食も、月の一部が見えなくなる現象です。では、光っている部分の見え方にちがいはあるのでしょうか。

三日月の場合、欠けている部分の両端を結ぶと、月の中心を通ります。一方、部分月食では、欠けている部分の両端を結んでも、月の中心を通りません。同じように欠けている月でも、欠け方がちがうのです。

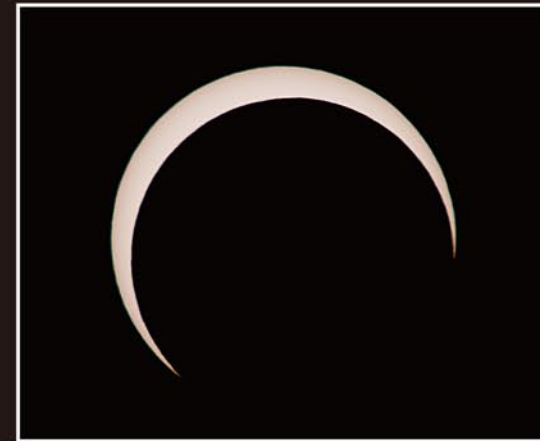


三日月



月食

日食



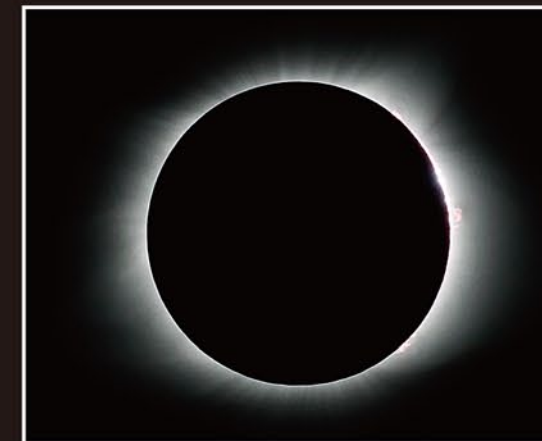
部分日食

太陽の一部分だけが欠けて見える日食で、まわりの明るさはほとんど変わりません。



金環日食

太陽の周囲が輪のようにかがやいて見える日食です。輪の太さは金環日食ごとにちがいます。



皆既日食

太陽全体が月にかくされる日食で、昼間でも夜のように暗くなります。太陽のまわりにプロミネンスやコロナという光が現れます。

星座は全部で88個

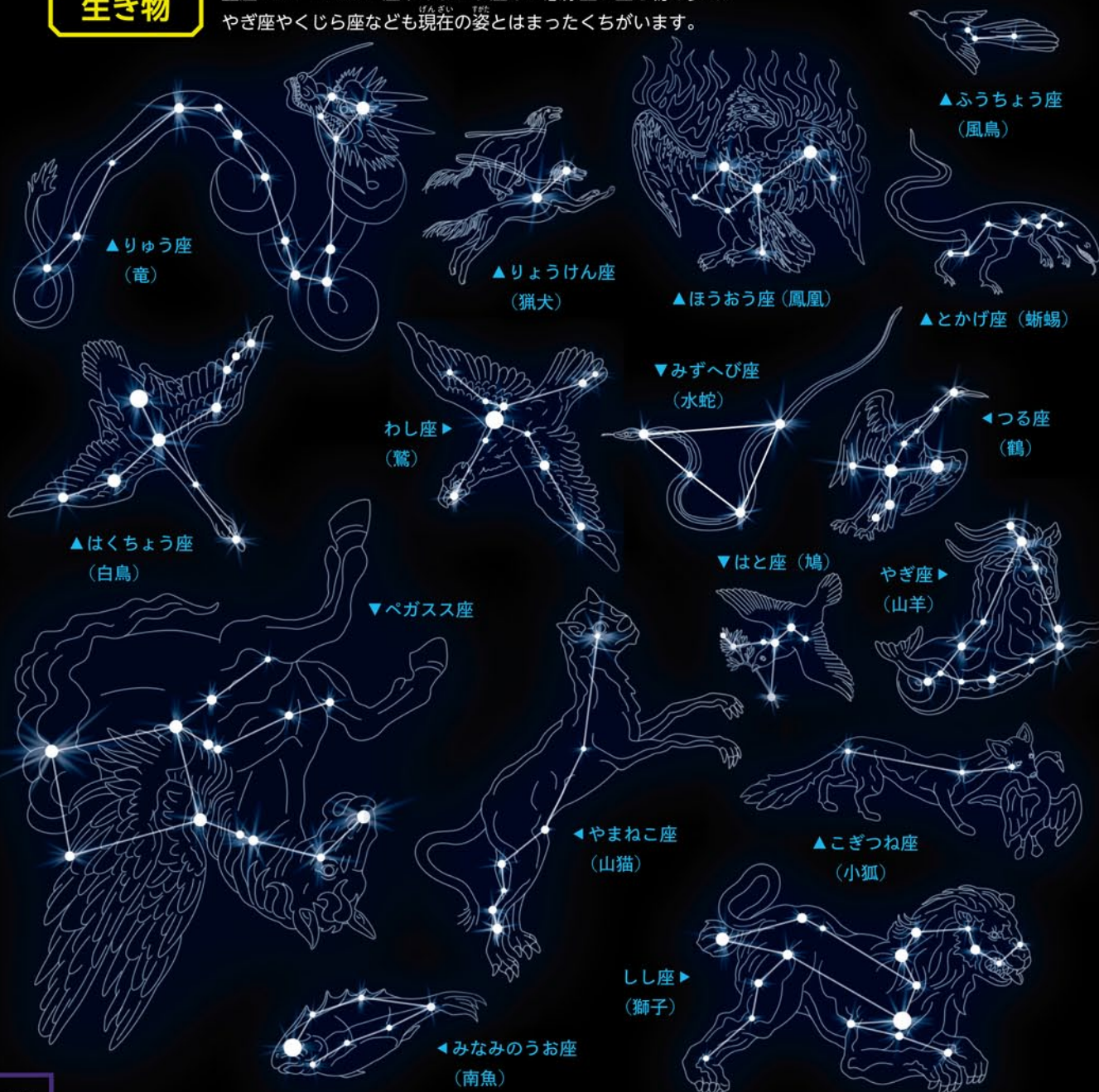
世界各地のそれぞれの地域でつくられていた星座ですが、1930年、世界の天文学者によって88個に整理され、星座の境目も決められました。

すべての星座のうち、多くをしめるのが生き物です。そのほか、神をはじめとした人型のもの、神話にまつわる道具などもありま

す。どのような形なのか、見てみましょう。また、後見返しに星座の一覧表がありますので、参考にしてください。

生き物

星座には、ペガサス座やほうおう座など想像上の生き物も多く、やぎ座やくじら座なども現在の姿とはまったくちがいます。



誕生星座の神話

おうし座——娘に近づこうと牛になったゼウス

フェニキアという国の王の1人娘エウローペは、とても美しい娘でした。大神ゼウスは、一目で恋に落ち、下界に降りると真っ白な牛に変身して花をつんでいたエウローペに近づきました。エウローペが牛に慣れてきて牛の背中に乗ると、牛は立ち上がって走り出し、ギリシャの近くにあるクレタ島に行きました。島に着くと、牛はエウローペに正体を明かし、ゼウスとエウローペは結婚しました。島やギリシャをふくむ大陸は、エウローペにちなんでヨーロッパと呼ばれるようになったのです。このときのゼウスの姿がおうし座になったとされています。



おとめ座——実りの神が悲しむと冬がくる

おとめ座は、大地や穀物、特に麦の実りの女神であるデメテルの姿です。デメテルと大神ゼウスとの間には、ペルセフォネという美しい娘がいました。あるとき、死者の国の王ハデスはペルセフォネを気に入り、死者の国へ連れて帰って妻にしました。ゼウスはハデスに娘を返すようにいいましたが、ペルセフォネは死者の国のものを食べていたので、1年のうちの3分の1は死者の国で暮らさなければならなくなりました。その間は、母であるデメテルが嘆き悲しんでいるため穀物が育ちません。1年の3分の1は、穀物が育たない冬になったのです。



誕生12星座には、それぞれの星座にまつわる神話が語りつがれています。ギリシャ神話で最高の神とされるゼウスをはじめ、多くの神が登場します。そのいくつかを紹介しましょう。

さそり座——オリオンをこらしめたサソリ

海の神ポセイドンには、体が大きく美男子のオリオンという子がいました。オリオンは力持ちの狩人で、あるとき「この世の中で自分より強いものはいない」とじまします。それを聞いた女神ヘラがおこり、サソリを放ってオリオンを殺します。サソリはオリオンを殺したてがらによって天に上げられ、星座になりました。また、月と狩りの女神であるアルテミスはオリオンの死を悲しみ、オリオンを星座にしてもらいました。星座になってからもオリオンはさそりをおそれたため、さそり座がのぼるとオリオン座はしずんでいくのだとされています。



うお座——怪物からにげる神の親子

ある日、美の女神アフロディテと息子エロスがユーフラテス川の近くを散歩していると、突然、怪物テュボンが現れました。テュボンは、地の神ガイアから生まれた、百の蛇の頭を持ち、目と口からは火をふき、うてと足先は大蛇になっているというおそろしい巨人です。2人は川に飛びこみ、魚に姿を変えてにげました。そのときの2人の姿がうお座です。にげるときにはなればなれにならないよう、ひもで結んだので、星座は2匹の魚がひもでつながった形をしています。

